

あとがき

子供の頃から書いていた詩が、社会人になってほどなく何を見ても書けなくなってしまった。大人になって感受性を無くしてしまったんだ、とウツウツしていたある日小網代に出会った。初めての森を歩きながら、私の中で詩の言葉が啓蟄の虫たちのようにもぞもぞと出ようとしているのが分かった。以来、どこでも紙とペンを持って詩を書いている。小網代はすごい、私を詩人にしてくれた。大きな大きな感謝である。これからさらに十年、森はどんな言葉を私にくれるのか、尽きぬ楽しみとはこのことだろう。最後に、小網代を誰よりも愛してやまない詩人の祈りを紹介したい。

小網代のカニ

岸　こあじろ 由二

ある午後

小網代干潟

梅雨明け間近な日

潮の引いた静かな湾に

アカテガニ

アシハラガニ

イシガニ
イソガニ
オオギガニ
オサガニ
カクベンケイガニ
クロベンケイガニ
タイワンガザミ
タカノケフサイソガニ
チゴガニ
ハマガニ
ヒヅメガニ
ヒライソガニ
フタバカクガニ
ベンケイガニ
マメコブシガニ
ヤマトオサガニ

どうだ、すごいカニじゃないか！
こんなカニたちをささえる干潟
その干潟をささえる海と
小網代の森のすごさはどうだ！

いのちあつまれ 小網代
何年も何年もの未来へ
しっかり伝えられますよう

